

労働組合の存在意義

危機的な状況になっています

JR九州に勤める社員の多くは労働組合に加入していますが、皆さんは労働組合に対してどんな印象を持っていますか？現在労働者の労働組合加入率は年々下がり続け、厚生労働者の調査では約17%となっています。従業員が1000人以上の企業では加入率40%以上ですが、従業員が少なくなればなるほど組織率は低下し、100人以下の企業では1%以下となります。原因としては、非正規雇用の増加や業績好調な企業が組合と交渉せずともある程度満足できる労働条件を提示したり、春闘などでなかなか成果が上がらない等が加入率低下の原因と考えられています。

ただし、これは外的要因で組合自体に問題があるのではないかという意見も出されています。労働組合の本質から外れ、組合員のための労働組合ではなく、組合幹部の利益目的のために御用組合化したり、専従者の為の組合活動等、幹部や専従のための労働組合になれば、労働組合としての存在意義を問われ、組合加入の意義が無くなり、今後も減少に歯止めがかかりません。

簡単に戻る事はありません

組合活動について否定的な意見を耳にすることがあります。「やってもあまり意味がない」「組合活動をすれば会社に目を付けられる」「役員になれば休みに駆り出される」等、様々な声があります。皆さんが働いていく中で組合員の要求を組合が会社と交渉し、新設された制度や改善されたことが沢山あります。働く上で労働条件は非常に重要な問題です。労働組合が弱体化すれば労働条件は後退し、後退した労働条件に戻すことは簡単ではありません。会社を経営していく中で経費を抑える事は大きな問題です。昨今よく問題になる長時間労働やブラック企業、検査記録の改竄、隠蔽等、企業の不祥事は利益追求に偏り過ぎた結果です。上層部の不祥事で最終的には労働者も犠牲になります。労働組合はチェック機能も有しており、重要な役割を果たしています。もう一度組合について考えてみてください。

国労は組合員の要求実現に向けて今後も会社との交渉を続けていきます。



組合員以外でも気軽に相談してください。



若い力

第 156 号

2021年 12月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515